

**製品名: Rit1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab17212**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	25kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RIT1
別名	RIT1; RIBB; RIT; ROC1; GTP-binding protein Rit1; Ras-like protein expressed in many tissues; Ras-like without CAAX protein 1
遺伝子 ID	6016.0
SwissProt ID	Q92963
免疫原	抗血清はヒト RIT1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 170-219

**背景**

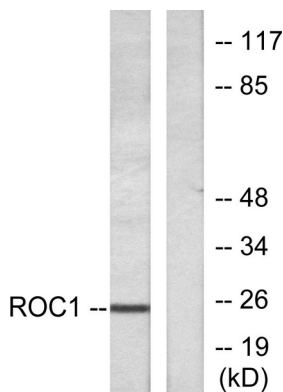
この遺伝子は、Ras 関連 GTPase のサブファミリーに属するタンパク質をコードしています。コードされているタンパク質は、細胞ス

トレスに関連する p38 MAPK 依存性シグナル伝達カスケードの制御に関与しています。また、このタンパク質は神経成長因子と連携して、神経細胞の発達と再生を促進します。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2012年2月], 酵素調節: GDP に結合した不活性型と GTP に結合した活性型を交互に繰り返します。 , 機能: NGF 刺激を EPHB2 および MAPK14 シグナル伝達経路の活性化に結びつける際、 および NGF 依存性神経分化において重要な役割を果たします。 , その他: 触媒されないグアニンヌクレオチドの解離速度が速く、これは Ras サブファミリーのほとんどのメンバーよりもはるかに速いです。 , その他: NGF および EGF 受容体シグナル伝達経路の刺激は、迅速かつ長時間の活性化をもたらします。 , 類似性: 小型 GTPase スーパーファミリーに属します。 Ras ファミリー。 , サブユニット: MLLT4、RALGDS および RLF の C 末端ドメインと相互作用しますが、RIN1 および PIK3CA とは相互作用しません。 RLF は、活性な GTP 結合型にのみ結合します。 BRAF とは強く相互作用するが、RAF1 とは弱く相互作用する。 BARF と RAF1 の結合は GTP 結合状態に依存する。 RGL3 と相互作用する。 , 組織特異性: 多くの組織で発現する。 ,

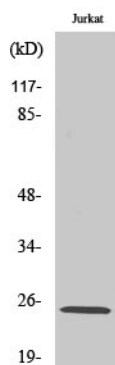
## 研究分野

細胞生物学; タンパク質分解/ユビキチン; プロテアソーム/ユビキチン; ユビキチン E3 酵素; SCF 複合体 E3 リガーゼ; シグナル伝達; シグナル伝達経路; G タンパク質シグナル伝達; 低分子 G タンパク質; Ras ファミリー; 神経科学; 感覚系; 視覚系

## 画像データ



RIT1 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 希釈の Rit1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析